

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さんのお役に立ちたい情報誌

10月18日(土) 第20回「病院祭」を開催します!

「病院祭」22年のあゆみ

今年で病院祭が開催され22年の月日がたちました。病棟全面新築・開院40周年といった様々な出来事があり、2年間休祭を余儀なくされ、今回、20回の節目を迎えます。そこで今までの伝統ある病院祭の歴史を振り返りました・・・。

病院祭の歴史

皆さんもご存知の通り鈴鹿厚生病院は、昭和40年に日赤病院を譲り受け(精神科)単科の小規模な病院を開設しました。かつては精神病院という特殊性から、厳しい時代が続きました。さらに昭和58・59年には病院の閉鎖も騒がれ存続さえ危ぶまれた暗黒時代でもありました。

このような暗いイメージから抜け出すためにも、もっと病院を知ってもらいたい、地域にとけ込んだ病院にしたいという願いから1986年9月に病院祭が生まれました。

第5回大会



カメレースは、病院祭の花形です。患者さんも地域の皆さんもそして職員も興奮しました。

第15回大会



第1回大会から続く焼き芋です。患者さんと手塩にかけたサツマイモ販売風景、ここに至るまでには、何回も試行錯誤を繰り返してドラム缶焼き芋機ができました。

患者さん・家族・地域とのつながりを大切に

第1回大会は、私が発案者で患者さんと家族のふれあいを目的に作業療法(OT)農耕作業で取れた1年間の収穫祭と銘打って病院祭を開催しました。第2回大会からは、患者さん・家族・そして地域とのつながりを大切に、を合い言葉に現在に至っています。今では、地域の自治会をはじめ社協・学校・保育園・一般企業・農協・そして近隣の大学准教授による講演といった地域歳時記「1年じゅうの行事」の一つと言っても過言ではないと思います。これから

大事なことは、地域に溶け込み根ざしていく病院造りと考えております。そのことが少しでもイメージアップにつながるのではないかと思います。

最後になりますが、病院祭が毎年盛大に開催されるのも地域の皆さんの温かいご理解と、ご支援によるものと感謝いたしております。今後ともよろしくお願いいたします。

病院祭実行委員長 藤本 和久



第18回大会



第18回大会

心の健康セミナー 誌面版

心の健康セミナー誌面版は皆さまに精神科病院や病気などをテーマに沿って毎号連載し解説していくコーナーです。

毎号
連載！

テーマ

家族教室

医師 野村 泉

家族教室は現在、統合失調症の患者さまの家族を対象に、毎月1回行っています。患者さまに最も身近な存在である家族の方に、病気や障害についての理解を深めていただくことで、家族の方の不安を和らげると共に、患者さまの回復に向けてより強力な協力者になっていただくことを目的としています。

当院の家族教室はソーシャルワーカーを中心に、医師、薬剤師、作業療法士をはじめ、各病棟の看護師も加わったチームで運営しています。

原則第4土曜日の午後1時から3時に、院内の地域医療センターで行っています。前半1時間は、毎回のテーマに沿った資料（ビデオ、パンフレット、プリントなど）を用いて、講義形式で行っています。今年度のテーマは、①病気について知る ②薬について知る ③リハビリや社会資源の利用について知る ④作業療法を体験する、以上の4つのテーマで行っています。この4回を一つの単位として、1年間で3回繰り返します。反復して行う事で、聞き漏らしを減らし、理解を深めることを狙っています。後半1時間は、ご家族の方とスタッフが車座になって自由に話し合う形式のグループワークを行っています。グループワークでは、家族同士の話し合いを通じて、悩みや工夫を分かち合うことを目指しています。途中からでも参加できる形式で、毎月行っていますので、是非お気軽に外来や病棟で家族教室についてお尋ねいただき、ご参加ください。またご家族の意見をいただきながら、内容を磨き上げていきたいと考えております。共に教室を盛り上げていくメンバーとして、積極的にご参加いただければ幸いです。

将来的には、院内外の専門家を招いて講演を依頼したり、統合失調症以外の疾患にも対象を広げたいと考えています。（家族教室に関しては、当院地域医療センターへお問い合わせ下さい）

院内百科

vol

7

教育委員会

看護部教育委員会は、副看護部長をはじめ

17名の委員で構成されています。教育方針は1. 地域社会から求められる看護に、主体性を持って精神科看護の実践ができる人を育成する。2. 患者様の人格を尊重し、質の高い看護を提供する為、自己研鑽できるよう支援する。

刻々と変化する社会情勢と共に、保健福祉医療を巡る急激な変化に伴い精神科医療へのニーズも多様化してきています。そこで教育委員としての役割は、いかにして看護職個々のモチベーションを上げ、効率の良い教育プログラムを考案するかと言うことであると思います。4月の新採用者の研修に始まり、毎月2～3回の研修会を行っています。患者さまに、より質の高い看護ケアを提供できる様、教育委員自らも自己研鑽に努め、今後も活発な委員会活動に取り組んで行きたいと思ひます。

ちょっと
聞いて!!

秋の花フェスタ開催!!



9月9日（火）に秋の花フェスタを開催しました。

今年の4月にも春の花フェスタを開催し患者さまに花の苗植えや願い札の作成などを行ってもらい好評を得ました。今回は春の花フェスタで花壇に植えた花の植え替えを中心に、患者さまと近隣保育園の保育園児に参加してもらい開催しました。



苗の種類は日々草で、約150苗を植えました。開催の目的として、園芸活動を通じて日々の活動の提供をし、適切な生活リズムを獲得をしてもらったり、植物の変化を見ることで季節感を感じてもらったり、植物によるリラックス効果からのストレス軽減の期待などに重点を置き、開催目的としています。当日の開催だけではなく、その後の日々の活

動にも影響していて、当日植えた花が気になるからと水やりや手入れを熱心に行っている患者さまもいます。



当日は天気も良く、その他の催しとして職員バンドやよさこい、保育園児の遊戯なども行い、患者さまや園児の笑顔がとても印象的でした。



今後も予定しています

来春も春の花フェスタを予定しています。

vol
15

スマイリー・バトンリレー

西2階病棟 男子療養型閉鎖・開放病棟

西2病棟のスタッフ

西

2階病棟は、男性の療養型閉鎖・開放病棟です。患者さまのその人らしさを尊重し、患者さまとともにどのように生活したいかを考え「ささえあい、ともに生きる」を理念として看護援助を行っています。男性病棟という事もあり華やかさには欠けますが、ソフトボールやバレーボールなど男性病棟の特色を生かしスタッフ一同頑張っています。また、社会復帰の為の料理グループや地域貢献活動としての海岸清掃なども行っています。

心にゆとりのコーナー

秋刀魚の南蛮漬け

秋刀魚(さんま)はその字が示す通り秋の代表的な魚です。旬のこの時期は脂肪量が2割ほど増えて美味しくなります。たんぱく質は良質で、血液をサラサラに保って血栓を防ぎ、脳の記憶力を高める働きのある不飽和脂肪酸が含まれます。また、ビタミンEが豊富なので、頭の働きをクリアにする作用も期待できます。ビタミンB群のナイアシン、B6、B12、パントテン酸にも富み、これらは皮膚トラブル、貧血、口内炎、免疫力の低下などを防いで全身の活力を高めてくれます。食材の知識を深めて、美味しく・健康に、秋の味覚を楽しみましょう。

材料4人分

- 秋刀魚…………… 4尾
- 小麦粉…………… 適宜
- 油…………… 適宜
- 玉ねぎ…………… 1個
- 人参…………… 1/2個
- 赤唐辛子…………… 1本
- おろし生姜…………… 少々
- 酢…………… 大さじ2
- 醤油…………… 大さじ2
- 塩…………… 少々
- 砂糖…………… 小さじ1
- 酒…………… 大さじ1
- だし汁…………… 大さじ2
- 葱…………… 少々

作り方

- 1 秋刀魚は三枚におろして適当な大きさに切り、小麦粉をまぶして、油で揚げます。
- 2 玉ねぎ・人参はせん切りにし、唐辛子は小口切りにする。
- 3 鍋にAの材料を合わせ、軽く沸騰させる。
- 4 ③を②の野菜と秋刀魚にかけ、冷ます。
- 5 器に盛り、小口切りにした葱を散らして出来上がり。



ボランティア

千代崎海岸にて海岸清掃!

7月23日に西2階病棟の患者さま10名、職員3名で千代崎海岸にて海岸清掃を行いました。きっかけは自分達の生活する地域で何かボランティアが出来ないだろうかと話しているうちに、夏はとても海岸が汚れていると聞き、海岸清掃を行いました。当日はとても暑かったのですが、参加者は黙々と清掃を行い、自分達の住む地域の海岸をきれいにしようという気持ちがとても伝わりました。ごみはごみ袋に約20袋集め、それぞれ可燃ごみや空き缶に分け、所定の場所に運び終了しました。今後もこのような活動を続けていきたいと思ひます。



にがおいし

スポーツの秋にふさわしい(?) 今号の似顔絵もなかなかでしょ!!

ニックネーム: _____

本誌へのメッセージ: _____

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



きりとり

ほ っ と ニ ュ ー ス

● 盆踊りを開催しました。

今年も、去る8月7日(木)に納涼盆踊りを行いました。まず、患者さまが最初から最後まで楽しんで踊ってみえたのがとても印象的でした。そして近隣保育園の園児や地区の子供達も参加され、また何より地域の方にもやぐらで太鼓を叩いていただき、少しずつではありますが、地域に病院の盆踊りが根付いてきた証拠であると、とても嬉しく思います。よさこい、模擬店、バンド演奏...アトラクションも充実されて、本当に歴史的な盆踊りであったと思います。スタッフの方々には、真夏の猛暑の中での準備やご協力大変ありがとうございました。それが、患者さまの素敵な笑顔に繋がったのは言うまでもありません。来年もよろしく願い致します。

合同レク委員会



●外来診療担当医表 (鈴鹿厚生病院)

		月	火	水	木	金
午前	初診	高山	中瀬	小野	野村	川喜田
	再診	中瀬	川喜田	川喜田	西浦	
	再診		山本		中瀬	
午後	初診	中澤	宇野	林	交替制	14時~ 山本
	再診	小野	西浦		高山	

理念 ささえあい、ともに生きる

■ 基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 - 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
 - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
 - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みます。

編集 後記

今号は「病院祭」などをお伝えしました。さて、広報委員スタッフは「Live With すずか」の名のとおり、皆さんと一緒に創っていきたいと考えています。本誌へのご感想や、ご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

TEL・059-382-1401 (代表) FAX・059-382-1402
Eメール・info@skh.miekosei.or.jp